

SKY コーナー

「2017 ITEA北海道支部 安全大会」開催

声掛けは 仲間を守る 命綱
互いに確認 安全確保！！

情報通信エンジニアリング協会 北海道支部

北海道支部安全大会 実施概要

北海道の協会会員の安全施工に対する意識統一と、各社の取り組み施策の共有を目的に、9月11日（月）札幌コンベンションセンターにおいて、「北海道支部安全大会」が総勢320名の参加者によって開催されました（写真1）。

来賓として参加いただいたNTTグループ幹部の方々のご紹介の後、大村北海道支部長の開催挨拶で幕を開け、その後本部の藤田専務理事挨拶、ご来賓を代表してNTT東日本 高橋北海道事業部長様からの挨拶をいただきました。

昨年度は、痛ましい死亡事故が3件、今年度に入って既に1件の死亡事故が発生し、負の連鎖が断ち切れていない現状から、皆様からの御挨拶には、『北海道で決して死亡事故は起こさせない』『安全最優先を徹底する』という強い意志がメッセージに込められていました。

毎年好評の特別講演は、せろり企画の行平 正樹氏による「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」と題しまして、良きリーダーシップとチームワークが現場の安全を

支えることに関する講話が行われました。

休憩をはさんだ後半は、支部会員4社による「安全の取り組み施策」の発表、次に各社代表からの「安全決意表明」が大村支部長に手渡され、最後に参加者全員による「安全スローガン唱和」を行い、盛大な大会を終了しました。

また、会場後方には、展示エリアを設け、第一勧業様、マサル工業様、仙台銘版様のメーカー3社が物品展示を行い、開会前と休憩時には参加者が興味深げに見学をしていました（写真2）。

写真2
展示エリア



写真1 会場風景



司会：(株)つうけん 千葉社員

大村支部長挨拶（要約）

大村支部長からは、冒頭、昨今の事故発生状況から、昨年の死亡事故に触れ、『北海道エリアから、あつてはならない事故を起こさせないよう、皆さんと再度意識合わせをして、元請として協力会社の指導を含めて、しっかりとやっていきたい』との意気込みが語られました。

続いて、平成28年度と平成29年度の人身・設備事故の発生状況について、エリア別・発注会社別の切り口での説明がありました。

『北海道エリアでは、平成28年度人身事故2件、平成29年度設備事故1件が発生しており、安全安心で品質

の高い工事ができるよう、元請・協力会社が一丸となって頑張っている。』

『発注会社別では、東日本、西日本、ドコモ、COM、ファシリティーズ、通建会社以外のさまざまな発注工事において人身事故が発生しており、NTTグループ全体では、平成28年度から本日までに5件の死亡事故が発生している状況である。』

最後に、ここ数年間事故が減らず、逆に増えている状況から、再度『北海道で死亡事故を起こさないよう、北海道支部が一致団結して事故の撲滅に向けて元請責任を果たすべく頑張っていきたい。』との決意で締めくくられました（写真3）。



写真3 大村支部長 大会挨拶

藤田専務理事挨拶（要約）

藤田専務理事からは、今年度、大分で発生いたしました死亡事故に関連して、安全への取組みについての想いが語られました。

『この事故発生が一番の大きな要因としては、普段からの行動を遵守しなかったことが大きな事故に結びついていると考えております。普段なら絶対行うような動作を、その時たまたま急いでいて行わなかった。そういった事が大きな事故につながってしまったのではないかと



写真4 ITEA 藤田専務理事 来賓挨拶

考えております。それ以外にも、いろいろと事故が起こる要因はありますが、安全は何より第一優先で考えなければならぬことだと思いますので、皆さまも普段からの行動を常に見直し、安全に留意した活動を進めていただけますよう、よろしく御願います。』と挨拶いただきました（写真4）。

高橋事業部長様 来賓挨拶（要約）

高橋北海道事業部長様は、大会に招かれた事への謝辞に続いて、NTT東日本の状況からお話を始められました。

昨年度、NTT東日本は、収益1兆6,700億円程度、初めてIP系収入が減少となったものの営業利益は、1,891億円と過去最高益、5年連続増益、3年連続過去最高益を更新というところまで利益が取れる構造になってきました。

今年度は、収益1兆6,500億と減収傾向となるものの色々な創意工夫で1,900億の利益確保を目指して活動を推進していくと述べられました。

次に、NTT東日本の動向として、事業の3本柱に関する特徴点について話されました。

- ①ビジネス市場戦略
- ②光コラボレーションモデルの推進
- ③経営の効率化と生産性向上

光コラボによりマスのBB利用ユーザへのベース基盤はできあがり、次のターゲットとして、まだまだ手付かずの中堅中小市場に対する、クラウドのような高付加価値商材利用促進の取組みが活動の柱となってきます。

NTT東日本北海道事業部においては、ビジネス市場戦略として法人営業とオフィス営業からビジネスイノベーションへと組織再編を行い、スキル・ノウハウを融合して伸ばしていこうとする取組みを開始したことについて説明されました。

また、通信建設会社を取り巻く状況として、DPエリア化に関する自立化の取組み、工事の平準化に向けた新たな取組みについて説明されました。

続いて安全の話として、昨年度、北海道で発生した人身事故を例にあげて、注意していただきたい内容について話されました。『1つは、基本動作の手順をしっかり守って、近道行動をしないということです。もう1つは、作業員1人ひとりに丁寧な気配りと、きちんとしたケアをしていただきたい。』

今年度の人身事故ゼロの達成と合わせて北海道事業部のさらなる発展への協力をお願いされて挨拶の締めとされました（写真5）。



写真5 高橋北海道事業部長 来賓挨拶

特別講演 「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」

特別講演は、ラグビーの代名詞でもある「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」と題して、チームワークの重要性について、自分の過去の失敗談なども織り交ぜ、チームワークが自分と周りの仲間の安全を守るために重要な役割を果たすことを講演いただきました（写真6）。

多岐に渡った講演内容の中から、1つを紹介いたします。

『現場の安全にとってチームワークが重要なのは、皆さんも十分わかっていると思います。でも難しいのは、どうやってチームワークを形成するか、と醸成するかです。』

ONE FOR ALL ALL FOR ONE という言葉は、ラグビーの代名詞とされています。野球やサッカーでは、得点するとガッツポーズをしますが、ラグビーでは、このような光景はありません。何故か？ラグビーによるトライというのは、仲間が体を張ってつないでくれたボールを最後に地面においた者という位置づけしかないのです。

フランスの小説家ロマン・ロランの言葉に「ピラミッドは決して頂上からは、つくられない」というのがあります。どうしても皆さんの目は頂上で輝いている選手にいきますが、その彼を支えている仲間の存在を見落としではいけないということです。

よく自分ひとりで仕事ができていると勘違いしている人がいると思います、私も勘違いしていた時があります。その時に上司の言われた言葉を今も覚えています。

働くというのは、「傍を楽にする」または「傍を楽しくする」ということ、おまえの仕事のやり方は独りよがり、はた迷惑だ……。

働くということは、傍を楽にする。こう心得て下さい。

第35代アメリカ大統領J・F・ケネディの名言に以下のようなものがあります。

「危機という言葉は、2つの漢字から成り立っている、

1つは「危ない」という意味、もう一つは「機会」という意味である。」

彼は、この時、東西冷戦、キューバ危機、キング牧師による公民権運動と毎日がピンチの連続でしたが、この言葉を信じて乗り切ったといわれています。

このケネディ大統領の就任演説は、歴代大統領演説で最も優れたものといわれています。その内容は「我がアメリカ国民諸君、国家が何をしてくれるのではなく、国家に何ができるかを問いたまえ」というものです。

我々の立場に置き換えると「会社が何をしてくれるのではなく、会社に何ができるかを問いたまえ」。

チームワークという観点からいうと「仲間が何をしてくれるのではなく、仲間に何ができるかを問いたまえ」。

これこそが、ONE FOR ALL ALL FOR ONE ということだと思います。』

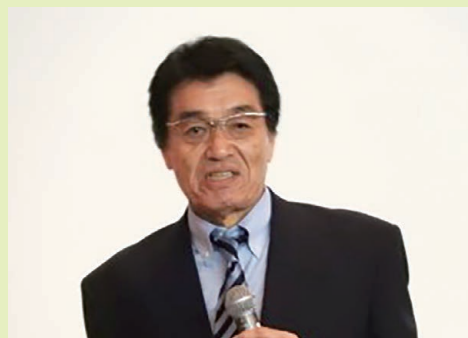


写真6 特別講演 行平 正樹氏

各社からの「安全品質の取組み」発表

支部会員各社の発表内容は以下のとおりです。

◆日本コムシス(株)

「H29年度 安全・品質向上施策 事故“ゼロ”に向けて」

設備事故多発に対する改善対策の4本柱についての発表（写真7）。

- ①過去事例に基づく対策の落とし込みと風化防止策
- ②安全施工サイクルの確立と完全実施
- ③安全パトロールの徹底、協力会社へのマネジメント力向上



写真7 日本コムシス(株)

④階層別研修充実、社員対話による事故防止マインド醸成

◆株協和エクシオ

「事故撲滅に向けた取組み

＜安全施工サイクルシステム紹介＞



写真8 株協和エクシオ

無事故達成の重点取組みの柱の1つである安全施工サイクルの確実な履行のために、導入した「安全施工サイクル支援システム」の運用状況を動画で発表（写真8）。

◆株ミライト

「安全品質の取組み」

事故・災害防止のため取り組んだ施策についての発表（写真9）。



写真9 株ミライト

- ①高所作業時の双方向確認施策
- ②脚立踏さんの滑り止め施策
- ③簡易テントによる熱中症予防施策

◆株つうけん

「安全施工サイクル（安全朝礼）」

ITツールを利用した取組み紹介

安全施工サイクルの確実な実施に向けた取組みの中から、都市部で事業所周りの住環境に配慮した安全朝礼を開催するため、ITツールを利用した安全朝礼実施の取組みについて、実施状況のビデオを交えて発表（写真10）。

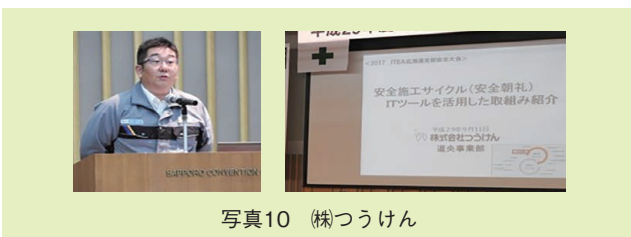


写真10 株つうけん

各社代表による安全決意表明

安全に留意した作業を行い、絶対に事故を起こさないという強い決意が、各社の代表者により表明され、大村支部長に表明文が手渡されました（写真11）。



写真11 安全決意表明

全員で安全スローガン唱和

参加者全員が起立し、ITEA北海道支部の「平成29年度安全スローガン」を唱和して、大会の最後を締めくくりました。

リーダーの先導により声高らかに、気合の入った唱和が行われ、事故防止に向けて気持ちを新たにしました（写真12）。

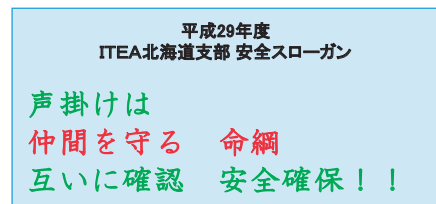


写真12 安全スローガン唱和 株協和エクシオ 先崎 光義